

05 年 10 月 26 日 ■北朝鮮向け短波放送「しおかぜ」のスタートについて

予定通り 30 日からの送信ができることになりました。以下、本日の記者会見で発表した内容をお伝えします。

◎放送開始 10 月 30 日 23:30

◎放送方法

英国の放送配信会社「V T コミュニケーションズ」(NHK の国際向け放送を配信している会社) に委託して行う。調査会で作成した番組をインターネットを使って英国に送り、英国から第三国の送信施設を経由して流す。

◎放送目的

- (1) 拉致被害者に対して日本で救出の努力をしていることを伝える。
- (2) 北朝鮮当局に注意しつつ情報を外部に出してもらうよう伝える。
- (3) その他

※今後の課題だが、北朝鮮の体制崩壊時などには避難場所等の情報を流すこと等にも使うことを想定している (もちろんこの場合は救援の体制が必要だが)

◎経緯

7 月、新聞にてソウルの「自由北韓放送」が北朝鮮に短波放送を行うとの記事を読み、同月下旬代表荒木が訪韓した際、同放送を訪問、代表の金ソンミン氏から話を聞く。これをもとに教えてもらった英国 V T 社と連絡をとり、詰めを行ったのち荒木がロンドンの同社に赴き今月 8 日に契約を締結した。その時点で放送開始予定を 10 月 30 日とし、以後は技術的な問題を調整してきた。本日 26 日、技術的な問題がすべて解決され 30 日からの放送が確定した。

◎放送時間

当初 1 日 30 分で、23 時 30 分から 0 時まで (毎日)。資金・態勢等の余裕ができれば今後延長していく予定。

◎放送期間 最低 1 年間。基本的には問題解決まで続ける予定。

◎周波数 5.89 メガヘルツ

◎聴取可能地域 北朝鮮全域 (中国の北朝鮮国境付近及び韓国の北部でも聴取可能)

◎対象

公開の特定失踪者約 250 名と政府認定者及びその中間にある救う会認定者。

(家族会の放送への協力及び政府認定者等の読み上げは 10 月 12 日に決定) 全体の数は約

270人

◎内容

(第1段階) 次のように名前を読み上げる。「〇〇さん、昭和〇年〇月〇日生れ、昭和〇年〇月〇日、〇〇県〇〇市で失踪。当時〇歳、現在〇歳。」

1日50人余の名前を読み上げ、5日間で一巡する。政府認定者の場合はデータの後に「〇〇さんは日本政府が認定する拉致被害者です」と入れる。

(第2段階) 第1段階が順調に進行した段階で希望する家族に書いてもらった拉致被害者へのメッセージ(400字程度)の読み上げを行う。

(第3段階) 第2段階が順調に進行した後に希望する家族からの直接の呼び掛けを録音し流す。

※上記以外の内容についてはスタートしてから検討していく。

※当初は日本語のみの放送とする。

◎費用

毎日30分放送で送信費用年間約300万円。一般からのカンパで賄う。第3段階の家族からの直接の呼び掛け(希望者のみ)については費用負担をお願いする予定

◎電波妨害への対応

V T社側の話では、複数の周波数を使うなどの方法があるが、基本的に電波妨害できる範囲はそれほど広くなく、国土をカバーすることは不可能とのこと。V T社でも周辺地域で受信状況は常時チェックすることになっている。

◎受信報告書

郵便振替用紙を使った1000円以上のカンパで、通信欄に受信データ(日時、周波数、受信状態など)の記載されたものに限ってお礼の文書を送付する。

以上